

上尾歴史散歩

234 上尾の古い地名をこう

「荒川改修の跡地を訪ねる」 ～平方～

「ぐるっとくん」を「平方神社前」で下車し、百メートルほど北上すると橋神社前に出る。左折して三百メートルも歩くと、荒川の河畔である。明治初年の地図を見ると、荒川は西北方向から平方の町並みに突き当たるように流れ、地先で急に湾曲して西南方向に流下している。現在のよう



荒川に架かる西野橋。奥の高台になっているのが西野土手(ゴルフ場から東方を望む)

に直線で南北方向に流下する荒川ではなく、ややS字形の流路を形成している。そして西方の湾曲部の先端に人間川が流入しており、現在の川筋とは異なった流路である(『迅速測図』)。

荒川河畔に出合った地点から右折して、やや広い道路を北上する。三百五十メートルも歩くと右手にゴルフ場のクラブハウスがあり、さらに二百メートルも進むと左手に小さな橋が見える。この橋は「西野橋」と称され、現在河川敷部分にあるゴルフ場への専用橋であるが、この河川敷部分の小字は「西野」で、上尾市域部分の土地である。明治初年の資料によると、平方村西端の町並みの北方に「箕輪」という小字があり、箕輪の西方に「西谷」という小字がみられ



る。この西谷が現在の「西野」に相当するとみられる(『武蔵国郡村誌』)。

ゴルフ場のクラブハウスの背面付近から北方向に一条の堤防がある。平方地区の開析低地の水除堤で、西野橋から北へ三百メートルも続いている。土地の古老たちに聞くと堤防の名称は「西野土手」で、排水口である樋管も「西野樋管」と呼んでいる。明治初期の資料によると、平方村の堤防には「三入堤」「貝殻堤」の二つがある。三入堤は村の西方にあり、長さ二百五十二間・馬踏二間・堤敷九間、貝殻堤は村の南方にあり、長さ百八間・馬踏二間・堤敷九間の規模である。馬踏は堤防の天頂部分に当たるが、現在の堤防から見ると大変小規模なものである。堤防の位置・規模からみると三入堤が現在の西野堤とみられるが、名称は地元の古老に聞いても不明である。貝殻堤は小字「南」から貝塚地区に続く現存堤防である(前掲書)。

西野橋付近で堤防の天頂に登ることとするが、この位置からでは古い荒川の流路などを把握することはできない。現堤防の眼前を流れる川は、明治四十三(一九一〇)年の大洪水後の改修計画に基づくもので、江戸時代から明治初年に続く川筋ではない。平方地区の地元には、かつては人間川が流入しており、「筏流し」でも大変なにぎわいを見せたが、現在その面影を残すものが見当たらない(『荒川、人文II』)。

(元埼玉県立博物館長・黒須茂)

わくわくクイズ

○に入る文字や数字を当ててください。

国勢調査は、○○法に基づき、日本に住むすべての人・世帯を対象として実施する統計調査です。(ヒントは2ページ)

【賞品】 正解者の中から抽選で5人に、粗品を差し上げます。

【応募方法】 はがきかメールにクイズの答え、住所、氏名、年齢、電話番号、『広報あげお』の感想を記入して、9月21日(火)まで(必着)に上尾市広報課「わくわくクイズ係」へ。

あて先: 〒362-8501本町3-1-1
メールアドレス: s55000@city.ageo.lg.jp

【発表】 賞品の発送をもって発表に代えさせていただきます。 ※正解は10月号のこのコーナーで。前号の答えは「500」でした。ご応募ありがとうございます(応募者37人)。

市の人口・世帯
(平成22年8月1日現在)

22万7,011人
男/11万3,559人
女/11万3,452人
※前月より68人減。

9万1,941世帯

◆「広報あげお」は、各支所・出張所、JR上尾駅・北上尾駅のほか市内の各公共施設、金融機関などに置いてあり、自由に持ち帰れます。
◆環境保全のため、市内の公共施設へのお出掛けは市内循環バス「ぐるっとくん」をご利用ください。